



井内地区人・空・棚田を活かす会
鶴見 武道 さん

販売までの苦労は計り知れません。何も知識がないところから、一から調べて研究しました。地元の皆さんはもちろん、大学の先生方や企業の方などたくさんの人が開発に関わった思いの詰まった商品です。一度手に取っていただくとそのよさが分かると思います。皆さんも五感で味わってみてください。



販売された思季美線香。JAえひめふれあい市みうち、さくらの湯観光物産センターなどで販売中。価格は8束入で5,000円。気軽に試したい人に少量を1,000円で販売。ふるさと納税の返礼品としても出品されている。

井内の生活で欠かせないシキミ シキミの新たな可能性と 井内の未来に希望を込めて



かしましいマドンナ達の皆さん

や技術を現地の人から聞き取ることもあった。
シキミを線香にするためにはなるべく葉を細かく潰す必要があった。棚田の会の菅野正義会長は「決まった大きさの粉末にすることが難しく相應しい機械を探すことに苦労した。つてをたどり、ようやく見つかった時は安堵しました」と話す。
商品の実現が少しずつ見えてきたところで販売に目を向けた。地元の人たちは販売に関する知識はほとんどなかった。

た。そこで、デザイナーによるワークショップを開催した。パッケージデザイン制作を通じて商品に込められた思いを地元の人で共有し、「心に香る、思いに香る『思季美線香』と名付けた。
箱詰めは地域の方が協力して作業する。井内でシキミ生産に取り組む女性団体「かしましいマドンナ達」の皆さんも協力し、まさに地域が一つになって商品が作られている。

るまで試行錯誤や話し合いを重ね、気付けば6年の月日を経ていた。出来上がった線香はシキミのフレッシュで爽やかな香りが特徴的で、線香を固めるタブ粉以外に添加物を一切使用していない純粋な線香として多様な場面で利用できる。
「販売がスタート。これからはまた違ったステージ。思季美線香が、シキミ産業を支える希望の光になれば」と明日を見据えた。



PICK UP

思季美線香 心に香る、思いに香る

1

1_ 井内地区のシキミ畑／2_ シキミを粉末状にしたもの。専用の機械を使用する／3_ 剪定後に残ったシキミの枝葉。収穫時の約半分が未利用となる



3



2

盆や彼岸に欠かせないシキミは春と秋の彼岸、盆、年末年始が繁忙期で年中収穫できる。シキミは他の植物と比べ長持ちし、成長すると10mになる。出荷する大きさは大体80cm。定期的な剪定や草刈りなどが大切となる。
江戸時代から始まった井内のシキミ産業は今日まで絶え間なく続く。一方で放棄された山林や、後継者不足などシキミ産業を継続する難しさを地元の人を感じていた。

会の皆さんはシキミを伐採し、剪定した際に出る枝や葉の約半分が未利用になることに着目し枝葉を有効活用できる方法を模索した。
まずは愛媛大学などと共にシキミの成分の分析と精油の活用に着目した。シキミには毒性が含まれ、猪などの有害獣を寄せ付けない一方で、活用が難しいとされていた。そこで、以前から他の自治体で開発されていたシキミ線香に焦点を当てた。
棚田の会でシキミ線香を販売する自治体に出向き、原料から線香になるまでの方法



井内地区人・空・棚田を活かす会
会長 菅野 正義 さん

販売まで6年もの時間がかかりました。やっとここまで来れたという思いです。たくさんの人に手に取ってもらい、井内のことをよりたくさんの人に知ってもらい、井内のシキミ産業を続けていきたいと思います。